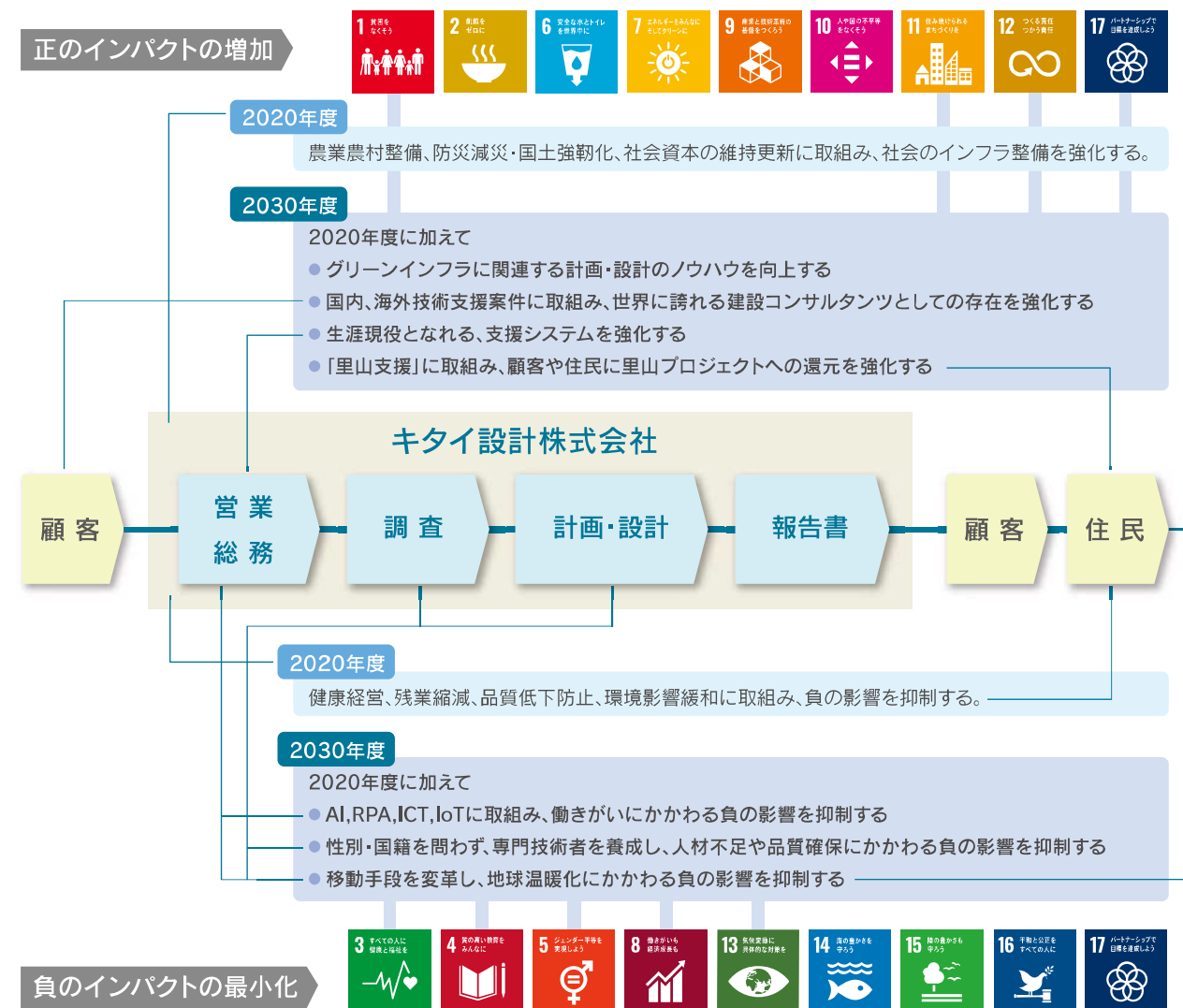


2020年と2030年の比較 キタイSDGsマップ

2020年度と2030年度の取組をマッピングし、正負のインパクトへの影響を比較しています。



2030年に向けた新たなマッチングの可能性 ～ 事業開発の方向性

2030年度に向けたSDGs×社内資源をマッチングし、事業開発の方向性を示します。



KITAI SDGs Plan

2020 → 2030

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



SDGsとは「Sustainable Development Goals (持続可能な開発目標)」の略称です。

2015年9月の国連サミットで採択され、2030年までに持続可能でよりよい世界を目指しています。
17のゴール・169のターゲットから構成され、地球上の「誰一人として取り残さない」ことを誓っています。



私たちキタイ設計株式会社は、戦後復興と食糧増産のさなか、滋賀県琵琶湖近くの大中之湖の干拓事業をはじめとした土地改良事業を中心に、農業農村地域の発展に貢献するという社会的使命を果たすことで地域に認められ、地域に育てられて参りました。

そのことにあらためて感謝するとともに、国連が提唱する持続可能な開発目標 (SDGs) の達成に向けた取組を当社の重要課題と位置付け、「SDGs宣言」の下、地域の社会的課題解決と経済成長の両立を目指して積極的に取り組んで参ります。

2020年 キタイSDGs宣言

■ 2020年度の取組を継続し2030年度に比較検証し、見直します

弊社の企業理念に「社員一人ひとりが、社会によって生かされていることに感謝し、社会に貢献していることの自覚と自立心を持って行動し、品位ある会社としての確かな方向性を定める」精神が掲げられています。

2018年9月6日に「キタイSDGs宣言」を行い、2020年に右及び以下のとおり改定しました。

※なお社内の取組は、実質的に様々なSDGsとつながっているため、主に捉えるSDGsを設定しています。

➤キタイ設計の2020年の取組

【SDGs、ターゲット、グローバル指標は、国連で定められたもの】

キタイSDGs宣言	社内の方針	具体的な取組	SDGs	ターゲット	グローバル指標
飢餓をなくし持続可能な農業を推進する取組		・農業農村整備事業		2.4 生産性が向上し持続可能な農業実践	生産的で持続可能な農業地域の割合
住み続けられるまちづくりを推進する取組	受注最優先の徹底・年間目標の達成	・防災、減災、国土強靱化 ・社会資本の維持更新		9.1 持続可能で強靱なインフラ開発	地方の人口、旅客貨物量
				11.7 緑地や公共スペースの提供	緑地や公共スペースの割合
				13.1 気候関連、自然災害への強靱性	死者数、行方不明者数、負傷者数
ディーセントワーク※1および健康経営を推進する取組	働き方改革の推進	・ISO・SKYSEA ・新卒中途採用プロジェクト ・36協定の順守 ・ウィークリースタンス		8.5 働き甲斐のある仕事と同一労働同一賃金	失業率
	体調管理の徹底（日常社会への影響認識）	・社員の健康保持「健康経営」 ・感染症対策 ・充実した福利厚生 ・交通事故撲滅運動 ・BCP		3.4 精神保健、福祉の促進	癌、糖尿病、呼吸器系疾患、心血管疾患の死亡率
				3.a たばこの規制	喫煙率
				3.6 交通事故の死傷者半減	道路交通事故による死亡率
生態系を守り、豊かな地球環境を保全する取組	環境との調和に配慮した設計、多自然ビオトープ※2	・環境調査計画 ・環境配慮設計 ・環境配慮工事		15.5 絶滅危惧種の保護、対策	レッドリスト指数
専門的な技術力を高め、保つための取組	安全管理・リスク管理・発注者評価の向上	・業務管理 ・品質管理 (ISO) ・資格取得		4.3 技術教育への平等なアクセス	技術教育への参加割合
先がけて新プロジェクトに果敢にチャレンジする取組	新規事業戦略	・ベトナム国際技術支援プロジェクト		10.1 各国の所得成長率	各国の1人あたりの所得成長率

※1 ディーセントワーク：働きがいのある人間らしい仕事

※2 ビオトープ：生物の生息生育空間

キタイ設計2030年の未来

■ 2030年度は、産学官民連携により、新たに以下の取組を進めます

～ 私たちの将来像 ～

わたしたちは2030年も専門技術者集団としての誇りを大事にしています

バリュープロポジションを意識し、新規事業に取り組むことは、いざという時の会社の備えになり、緊急時における対応は、ニューノーマル(新常態)へも変革の可能性を持ちます。

SDGsに関わる社会貢献活動については、社内の技術研鑽 (CPD) に活用するとともに、積極的に推進し、社内外への情報発信を積極的にサポート、評価することとします。



【SDGs、ターゲット、グローバル指標は、国連で定められたもの】

基本的な方向	具体的な内容	SDGs	ターゲット	グローバル指標
AI※1、RPA※2、ICT※3、IoT※4技術を標準活用	・自動設計領域の拡大 ・BIM/CIM (3D)標準 ・i-Construction、VR技術、ホログラムへの活用 ・テレワーク&フレックス ・オンライン会議		8.2 高いレベルの経済生産性の達成	労働者1人あたりの実質GDP(国内総生産)の年間成長率
エネルギー変革に伴う新たな移動手段	・電気無人自動車利用 ・コネクテッドカー※5利用 ・郵送技術の進展		13.2 気候変動対策(国別)	温室効果ガスの低排出型の発展
グリーン・インフラに関連する計画・設計のノウハウの向上	・木造建築や緑化空間の創出技術の向上 ・エネルギー効率の向上に伴う技術革新 ・自然再生を考慮した防災設計技術の確保 ・ネイチャーポジティブ※7の展開		9.4 資源利用効率の向上や環境に配慮した技術によるインフラ産業改善	付加価値の単位当たりのCO2排出量
専門技術者養成システムの標準運営	・新卒_中途採用社員に専門技術教育支援 ・プリセプターシップ※6制 ・女性管理職の登用 ※性別や国籍を問わない		4.3 技術教育への平等なアクセス	技術教育への参加割合
			5.5 女性の参画、リーダーシップの機会確保	管理職の女性割合
世界に誇れる建設コンサルタンツ	・国内、海外技術支援業務の継続 ・自主事業に伴うランニングコスト提案		17.9 開発途上国での能力構築に対する国際支援強化	開発途上国にコミットした資金および技術援助額
サステナブルなまちづくり支援	・スマート農業技術活用 ・関係人口案内、マルシェ、社員保育所 ・クラウドファンディング ・都市農村交流、地域特産品づくり、6次産業化 ・生涯現役支援システムの運営		11.a 都市農村の良好なつながりの支援	地域開発計画を実行している都市の割合
			12.b 持続可能な観光業の開発	持続可能な観光戦略、行動計画

※1 AI：人工知能。artificial intelligence の訳語。コンピュータを使って、学習・推論・判断など人間の知能のはたらきを人工的に実現したもの

※2 RPA：Robotic Process Automation の略語。デスクワーク(主に定型作業)を、パソコンの中にあるソフトウェア型のロボットが代行・自動化する概念

※3 ICT：ICTは「Information and Communication Technology」の略で、通信技術を活用したコミュニケーション

※4 IoT：様々な「モノ(物)」がインターネットに接続され、情報交換することにより相互に制御する仕組み

※5 コネクテッドカー：常時ネット接続され、最新の道路状況を取得して最適なルートを算出したり、車両にトラブルが発生した際に連絡してくれたりする機能を搭載した車

※6 プリセプターシップ：見習いの新人を先輩の現場の熟達者が、一緒に現場で指導する「現場教育訓練」(OJT)の制度のこと

※7 ネイチャーポジティブ：生物多様性の損失を止めて反転させ、回復軌道に乗せること。自然を優先する施策、自然にプラスとなる取組

● 2025年度には成果の中間検証を行います ● 2030年にはキタイSDGsプランを見直します

KITAI SDGs Plan 2020 → 2030